



柴田町シルバー人材センター

もみの本

会報 シルバーだより 第39号

発行

公益社団法人

柴田町シルバー人材センター

宮城県柴田郡柴田町東船迫1-8-1

電話 0224-58-7400

FAX 0224-58-7401



手芸班のみなさん

新年に思いごと



理事長 半澤 秀雄

会員の皆様には、晴れやかに良き新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。平成も30年という節目の年になり、社会の転換期の到来が何となく予感されます。

さて、日本では少子高齢化が急速に進み、団塊の世代が70歳の高齢期に入りつつある中で、シルバー人材センターが地域で一定の役割を担うことへの期待は益々大きくなっています。こうした地域の期待に応えられるよう、当センターは今後着実に進んで行く必要があります。

ところで、平成28年5月に当センターの今後五年間の進むべき方向を定めた「第三次中期計画」を策定しましたが、今年は計画中間年の三年目になります。

この計画の中で重点推進目標として掲げた項目の中に、会員数を三百二十人に増員する、高齢者日常生活支援サービス事業を推進するの二つがあります。この目標実現には女性会員を増員する必要があります。このため高齢者世帯を対象に掃除や買い物などを支援する事業を、新たな柱として実施したいと考えています。

計画は策定すれば終わりではなく、目標実現に向けた努力が求められます。今年は、会員皆様のご協力を得てその実現に努力して参ります。



シルバーフェスタ 2017

「ル・レーブ」の
ギターアンサンブル



柳澤さんのピアノ演奏



ふるさと柴田音頭



安全運転指導体験車
「みやぎくん2号」



子どもの遊びコーナー

フェスタを終えて

今回で13回となるシルバーフェスタが、11月18日(土)曇り空ながら穏やかな天候に恵まれ、大勢の方を迎え盛大に開催することができました。

会場入り口には、除草班による安全就業姿のマネキンと、大河原警察署の協力で運転能力診断体験コーナーが設置され目を引きました。

館内では作品展示・販売・体験コーナーの他、シルバー人材センターの活動状況も紹介され、興味深く見入っていました。

ステージ発表は、樫の木音頭保存会の踊りで始まり、歌・舞踊・楽器演奏や町長の飛び入りもあり、会場は大いに盛り上がりました。

外では、昼どきにとん汁が振舞われ、「美味しい」といった声がいつぱい聞こえてきました。

食品や花苗の販売、刃物研ぎ、子供コーナーなど多彩な催し物に楽しんでいただけたと思います。

最後の大抽選会は、会場に溢れるばかりの歓声が響き、笑顔に包まれて終了しました。

フェスタの運営を通して、会員・役職員の連帯感が深まり、また、町民の皆さまとの交流が一層図られたものと思います。

フェスタ実行委員
谷津 正



理事長の開始のあいさつ



いつも美味しい
とん汁ありがとう



「安全就業マネキン」
製作中



オープニング「縦の木音頭」



抽選会の特賞ゲット



松崎・坂本さん司会お疲れ様でした

第2回
グラウンドゴルフ交歓大会



10月14日(土) 晴天のもとで白石川左岸河川敷グラウンドにおいて、午前9時から49人(会員11人が参加して「第2回グラウンドゴルフ交歓大会」を実施、和気あいあいと楽しくプレーしました。

私の楽しみ

趣味のゴルフについて



小池 邦夫



子供の頃の遊びといえば王、長嶋の時代ですから、自然と野球になりました。30歳を過ぎた頃、久しぶりにボールを打つ遊びに出会い、即夢中になりました。

以来、34年未だに飽きる事なく続けております。始めた頃は、お金のかかる遊びでしたが、今では少ない小遣いでも出来るようになり、体力が落ちてきても、それなりに何とか他の仲間についていけているのもゴルフの良い所です。

これから先、足腰が弱ってもクラブを杖代わりに頑張りたいと思います。

新会員紹介

どうぞよろしく

- 7B班 水上 富士子
- 9班 水戸 茂
- 13班 高橋 幸子
- 19班 武藤 久悟
- 20班 長澤 紘司

屋外作業では必ず
ヘルメットを着用
しましょう



平成29年度
安全就業貢献者の表彰
平成29年10月19日に開催された「平成29年度宮城県シルバー人材センター連合会安全就業推進大会」において、山形正夫さんが、「安全就業貢献者」として表彰されました。
山形さんおめでとうございます。

編集後記



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年を迎えたことと思います。昨年は不安定な年で気候情勢、で悪い印象が多かった感があります。今年は何の様な年か、私事ですが免許更新に高齢者講習通知で3年更新、認知症機能検査と自分ではまだ大丈夫と思っけていても、そろそろ考えていかなないと、人に迷惑をかける年齢に成りつつある事を改めて認識しています。介護を受ける年齢、せめてかわいげのある人、かわいげのある人生を目指したいと思ひます。

広報委員 佐藤 憲正



「しばたファンタジーイルミネーション」の電飾作業をしている会員たち